

令和 4 年 6 月 27 日現在

機関番号：34305

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16H02386

研究課題名(和文)近代の産業遺産の保存と活用に関する研究 - 歴史的価値の保存と多様で魅力的な活用

研究課題名(英文) Study on the Conservation and Adaptive Reuse of Modern Industrial Heritage:  
Diverse and Attractive Reuse with Conservation of Historic Value

研究代表者

齋藤 英俊 (SAITO, Hidetoshi)

京都女子大学・家政学部・教授

研究者番号：30271589

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 33,000,000円

研究成果の概要(和文)：近代産業遺産の保存では、広大な敷地に様々な形態と規模の多数の建築物から構成されるなど、また、活用では省エネルギーなど、様々な課題が多く、そのため、本研究において調査を行った諸外国と国内各地の多数の事例の中には「多様で魅力的な活用」を実現している事例は数例に留まっている。齋藤英俊らが関わった旧富岡製糸場の国宝西置繭所保存・活用事業は、日本建築学会から2022年度の業績賞と作品賞を授与された。作品賞の選考理由には以下のように述べられている。「新しい保存思想が国・自治体の関係者や専門家・技術者らによって共有され、高度な水準で具現化されたことは画期的である」この受賞は本研究の大きな成果の1つといえる。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本の近代の産業遺産は、明治以降の近代化の歴史の証言者であり、文化財として保存し次世代に継承することが重要である。近代の産業遺産の保存は従来の社寺建築等とは異なった多くの課題を有しており、新たな目的を創出し、適切な活用を図らなければ、その保存は困難である。本研究においては、国内および諸外国の事例研究を行い、様々な知識を得ることができた。その知識を世界遺産である旧富岡製糸場の国宝西置繭所の修理事業における活用計画に活かすことができた。その成果は日本における近代産業遺産の保存・活用の先駆的モデルとして、多くの所有者や専門家に希望と勇気を与えることとなると考えている。

研究成果の概要(英文)：The conservation of modern industrial heritage involves many issues, such as the fact that it consists of a large number of buildings of various shapes and sizes on a vast site, and its adaptive reuse involves energy reduction and other issues. Therefore, among the many examples in Japan and abroad surveyed in this study, we found only a few examples of "diverse and attractive reuse". The project for the conservation and utilization of The West Cocoon Warehouse of Tomioka Silk Mill, The National Treasure, in which Dr.SAITO and other members were involved, was awarded AIJ Prize 2022 in Practical Achievement Division and Architectural Design Division. The reasons for the selection of the Award in Design Division are stated as follows. "It is groundbreaking that a new conservation concept has been shared by national and local government officials, experts, and engineers, and that it has been embodied at a high level." This award is one of the major achievements of this study.

研究分野：文化財保存学

キーワード：文化財 近代産業遺産 保存と活用 ヨーロッパ アジア 日本

## 1. 研究開始当初の背景

近代の産業遺産の保存は、産業革命発祥の地であるイギリスで、1967年にアイアンブリッジを中心とした工場群を一つの博物館として保護したことに始まる。ドイツでも同時期にルール工業地帯の炭鉱施設が州の産業遺産として文化財に指定されていて、この頃、ヨーロッパでは近代の産業遺産を文化財として認識し、その保護が始まったとされる。1978年には国際産業遺産保存委員会(TICCIH)が設立されるなど、産業遺産の学術的研究が進み、2003年には、産業遺産の保存と活用に関する「ニジニータギル憲章」が採択された。世界遺産の分野においても、1994年に策定された「戦略的指針」に基づいて、ダーウェント渓谷の工場群、エッセンの関税同盟炭鉱施設などの産業遺産の登録が促進され、現在では50件近くが世界遺産に登録されている(2016年10月当時)。欧州諸国では、これらの産業遺産を地域のアイデンティティとして活用する事例が多く、斬新なアイデアによる先進的な試みは、産業遺産を魅力あるものに変え、新たな価値を生み出している。

日本において近代の産業遺産が文化財として保護の対象となったのは、平成2年度から始められた「近代化遺産(建造物等)総合調査」からである。これまで44道府県で調査が完了し(1都1県が調査中)(2016年10月当時)、その成果は調査報告書にまとめられている。この総合調査に伴って、近代化遺産についての学術的研究が進み、多くの研究者が育ち、近代の産業遺産は一般の人々に浸透し、親しまれる存在となった。そのような動きの中で、平成7年には「史跡」の基準が改正され、琵琶湖疏水の一部が史跡に指定され、また、平成26年に「富岡製糸場と絹産業遺産群」、平成27年に「明治日本の産業革命遺産 製鉄・製鋼、造船、石炭産業」が世界遺産に登録されるなど、近代の産業遺産は文化財の重要な分野を占めるに至っている。このように、日本の近代産業遺産の保存が進んだことから、その活用は急務となっている。また、遺産の価値を保存することを前提としながら、地域のアイデンティティとして、身近な歴史的環境として、魅力的な活用を提案する専門家の育成も急務となっている。

## 2. 研究の目的

近年、近代的手法で造られた産業・交通・土木にかかわる構造物を日本の「近代化」の視点で評価し、文化財として保護する施策が進められている。現在では、碓氷峠鉄道施設など75件が重要文化財に指定され、登録文化財は1900件を超えようとしている(2016年10月当時)。これらの近代の産業遺産の多くは、当初の用途・機能を失い、かつ大規模で複合的なシステムであるために、新たな目的を創出し、適切な活用を図らなければ、その保存は困難である。本研究は、文化財として大きな分野を占めるに至った近代の産業遺産に関して、その保存すべき文化的・歴史的価値を維持しながらも、社会的に有用な活用を図るための基本原則と手法を提案することを目的とする。

## 3. 研究の方法

国内の近代産業遺産の代表的事例の現状を調査し、保存と活用のための課題を明らかにし、その解決策について研究する。また、多様で魅力的で経営的にも成功しているヨーロッパ諸国の近代産業遺産の活用事例と、産業遺産の保存が進みつつあるアジア諸国の事例を調査する。

これらの調査・研究によって得られた情報や知見を基に、研究代表者・分担者・研究協力者による研究会を重ね、また、広く専門家・研究者の参加を呼びかけて行うシンポジウムを通じて、学術的・専門的議論を積み上げる。

#### 4. 研究成果

本研究において、イギリス、イタリア、フランス、ドイツ、オランダ、中国、台湾の各国・地域と国内各地の多数の近代産業遺産の保存と活用事例の調査を行ったが、本研究の目的の1つであった「多様で魅力的な活用」事例は多くは見いだせなかった。調査を行った産業遺産では、博物館施設や近代美術館として見学に供している施設や、商業施設として利用している事例が多い。そのなかにあって、ドイツの関税同盟第12豎坑施設（エッセン市）、デュイスブルクノルト景観公園（旧マイダーリッヒ製鉄所：デュイスブルク市）、ワルトロップ炭鉱ビジネスパーク（ワルトロップ市）は、活用が始まってから20年以上になるが、いまだにその魅力を失ってはいない。中国における近代産業遺産の保存と活用はこれからの感があるが、その中では上海市の旧発電所を現代美術館に活用している事例や、旧屠殺場を商業施設に利用している事例に見るべきものがある。台湾では日本の統治時代に建設された浄水場、たばこ工場、鉄道施設などを文化財に指定して保存に積極的に取り組んでいることが印象的である。このうち、台南市の「十鼓文化村」は、旧製糖工場のほぼ全施設を太鼓演奏クループが演奏場や稽古場、その他の活動に活用していて「魅力的な活用」を実現しているといえる。

近代産業遺産は、広大な敷地に様々な形態と規模の多数の建築物から構成される事例が多く、また、それらは生産技術の発展・改善・変化のプロセスを示していて、全体を保存の対象とする必要があること、工場建築であることから持続性を目的としていない構造や材料で作られていること、コンクリートの劣化や修理材料（前時代の工業製品）の入手の困難さを解決しなければならない。一方、活用の面では、労働環境の確保、環境改善、省エネルギー、バリアフリーなど様々な法規上の制限・規制があり、また、耐震補強、防災・防火対策など、安全性の確保が求められていることも課題となっている。こうした様々な条件が近代産業遺産の「多様で魅力的な活用」を困難にしていることも、本研究を通じて明らかになった。

研究代表者である斎藤英俊の他、本研究に参加している数名の専門家が関わり、2020年5月に竣工した旧富岡製糸場の国宝西置繭所保存・活用事業は、日本建築学会から2022年度の業績賞と作品賞を授与された。指定文化財の保存修理事業が作品賞を受賞したのは初めてのことであり、快挙といえる。作品賞の選考理由には以下のように述べられている。

「木骨煉瓦造建物の内部にハウス・イン・ハウスの形式で挿入された鉄とガラスの筒が、無数の素材が興味の尽きない物語を蔵して折り重なる状態そのままに、国宝建物を支えている。ガラス越しの経験には賛否両論あろう。日本では稀有な複合的保存も海外に目を向ければ類例は少なくなかろう。それでも、新しい保存思想が国・自治体の関係者や専門家・技術者らによって共有され、高度な水準で具現化されたことは画期的である。今後ますます高度なデザインの判断が問われる近代の建造物の保存再生の試みが増えていくであろうし、そうしたプロジェクトが広く優れた設計者の参画に開かれていくことも重要と考えるが、本作品がそうした未来の起点となることを期待したい。」

日本建築学会の業績賞と作品賞の受賞は、本研究の大きな成果の1つである。

以下、各年度における調査・研究の実績を記す。

(1) 平成28年度は、下記に掲げるようにドイツ・台湾および国内各所における近代産業遺産の保存・活用状況調査とデータ収集および比較検討を行った他、オランダ、ドイツ、シンガポール、台湾、中国から専門家・研究者を招聘し、国際シンポジウムを開催した。研究代表

者・分担者・協力者による関連論文を学会誌、雑誌等に計4本、掲載・発表した。また、国際研究集会の予稿集は日本語・英語の2カ国語で編集し、印刷製本し、関係者に配布した。

8月23-30日：ドイツのノルトライン・ヴェストファーレン州のルール工業地帯の近代産業遺産の保存・活用状況調査を行った（斎藤、木村、西岡、ヘンリヒセン）。11月4、5日：「重要文化財舞鶴旧鎮守府倉庫施設（旧第二水雷庫）」（舞鶴市）を会場として、国際シンポジウムを開催した。斎藤、西岡、北尾、矢谷（舞鶴市）の他、オランダ、台湾（2名）から招聘した研究者・専門家が講演を行った。参加者は2日間で延べ約80名であった。また、このシンポジウムに合わせて、3日に旧鎮守府倉庫施設（舞鶴市）、および5日にグンゼ本社工場施設（綾部市）の保存・活用調査を行った。1月5-9日：台湾の台北鉄道修理工場（台北市）、旧仁徳製糖工場（台南市）などの近代の産業遺産の保存と活用状況調査の調査を行った（斎藤、平賀、西川、巖、岡野、黄俊銘、傅朝卿）。3月4、5日：「重要文化財西洋美術館本館」（東京都）を会場として、国際シンポジウムを開催した。巖、井川（文化庁）、福田（西洋美術館）の他、ドイツ、オランダ、シンガポール、中国（3名）から招聘した研究者・専門家が講演を行った。参加者は2日間で延べ約200名であった。また、このシンポジウムに合わせて、3日に重要文化財旧三河島污水処分場唧筒場（東京都）など、6日に国宝・重要文化財旧富岡製糸場施設（富岡市）の保存・活用調査を行った。

（2）平成29年度は、下記に掲げるように中国・台湾・イタリアおよび国内における近代産業遺産の保存・活用状況調査を行った他、イタリア、フランスの専門家・研究者を招聘し、国際研究集会を開催した。また、各研究分担者はテーマに基づいた研究を進め、関連書籍の購入、関連データの収集を行い、論文等を作成し、発表した。研究代表者・分担者・協力者による関連論文を学会誌、雑誌等に計17本、掲載・発表した。また、国際研究集会の予稿集は日本語・英語の2カ国語で編集し、印刷製本し、関係者に配布した。

9月9~14日：中国・上海市の旧発電所、旧屠殺場、青島市の旧紡績工場など近代産業遺産の保存と活用状況の調査を行った（斎藤、平賀、西川、馬、他）。1月4~8日：台湾・台南市の旧製糖工場などを中心に保存・活用状況の調査を行った（斎藤、平賀、西川、青柳、岡野、是永、馬、傅、王、他）。また、巖は1月3~7日、北河は3月1~4日に台湾において、旧製糖工場などの保存・活用状況の調査を行った。3月16-22日：イタリアのトスカナ農業近代化遺産の調査を行った（宗田）。2月22日：京都府立大学稲盛記念会館を会場として国際シンポジウムを開催した。イタリア、フランスから招聘した専門家・研究者がぶどう農場とワイン醸造所の近代化に関して講演を行い、参加者と意見交換を行った。3月3~6日：北海道の手宮鉄道施設等、北海道の近代産業遺産など近代産業遺産の保存と活用状況の調査を行った（木村、西岡、出口、白木）。

（3）平成30年度は、下記に掲げるように、オランダ、イタリア、イギリス、アメリカ、台湾および国内における近代産業遺産の保存・活用状況調査を行った他、オランダ、台湾の専門家・研究者を招聘し、国際研究集会を開催した。研究代表者・分担者・協力者による関連論文を学会誌、紀要等及び書籍として計8件、掲載・発表・刊行した。国際研究集会の予稿集は日本語・英語の2カ国語で編集し、印刷・製本し、関係者に配布した。

7月24日：京都女子大学図書館多目的室を会場として国際シンポジウムを開催した。台湾、オランダより招聘した専門家・研究者が、台湾の製糖工場の保存、欧州の港湾都市の再整備の講演を行い、参加者と意見交換を行った。7月22日：舞鶴市の旧海軍施設の保存・活用事例の調査を行った（斎藤、西川、王他）。7月23日：京都市の琵琶湖疎水の旧御所水道ポンプ室及び旧九条山貯水池の保存状況調査を行った（斎藤、西川、王他）。8月22日 - 9月6日：オランダの産業遺産に関わる中間事業主体の調査を行った（北尾）。2月10 - 14日：南大東島および沖縄本島の製糖工場、ラム酒醸造工場、サトウキビ農場の実態調査を行った（西川他）。2月13 - 17日：奄美大島に於ける製糖工場、焼酎工場等の実態調査を行った（斎藤、平賀、是永、青柳、西川、西岡、木村他）。2月15日～17日：台湾の製糖工場および鉄道施設の保存と活用事例の調査を行った（巖）。2月27日～3月3日：イタリアのピサ市とローマ市の産業遺産活用事例調査を行った（宗田）3月7 - 15日：アメリカ：ワシントンD.Cの国立公文書館において南大東島・北大東島の製糖産業に関する資料調査を行った（西川）。3月20 - 27日：イギリス・スコットランドのウイスキー産業遺産の調査を行った（鳥海）。

(4) 令和元年度は、下記に掲げるようにフランス・イタリア・オランダ・台湾および国内各所における近代産業遺産の保存・活用状況調査とデータ収集および比較検討を行った。また、本研究の総括として、2019年8月に「近代の産業遺産の保存と活用に関する課題解決のための専門家会議 in TOKYO 2019」と題して会議を開催した。これらの調査・研究活動の成果は、研究代表者・分担者・協力者による関連論文を学会誌、紀要等及び書籍として計19件、掲載・発表・刊行した。専門家会議の予稿集は日本語・英語の2カ国語で編集し、印刷・製本し、関係者に配布した。

6月21 - 24日：台湾台中市の旧台中酒工場など、台湾における近代産業遺産の保存・活用状況調査を行った（巖）。8月21 - 22日：記念艦三笠（横須賀市）の保存、公開状況の調査を行った（北尾）。8月23 - 24日：東京文化財研究所を会場として「近代の産業遺産の保存と活用に関する課題解決のための専門家会議 in TOKYO 2019」と題して会議を開催した。会議にはフランス、カナダ、オランダ、中国（2名）、台湾（3名）から専門家を招聘し、国内からは研究分担者、研究協力者等が参加した。2日間に亘った会議では、6本の講演が行われ、各講演で提示された課題に対して討議が行われ、大きな成果を得た。会議の後の25日に桐生市の織物工場群、碓氷峠鉄道施設、26日に富岡製糸場の近代産業遺産の保存・活用状況を視察し、現地の担当者と、様々な課題に関して意見交換を行った。9月19 - 20日：舞鶴市赤レンガパークの煉瓦倉庫の保存・活用状況および3Dデータによる解析手法の研究を行った（北尾）。11月13 - 17日：沖縄・北大東島・南大東島の製糖産業関連施設の調査（安達）2月16-22日：イギリス・リヴァプール、オランダ・アムステルダムおよびロッテルダムの港湾産業遺産の保存・活用状況調査を行った（鳥海）。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計26件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 5-2
2. 論文標題 The Importance of Invisible Local Industrial and Social Aspects on The Modern Architectural Project: Evaluating An Example of A Community Centre of The 1950s In Japan	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Creative Space	6. 最初と最後の頁 81-90
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅、大石佳知、安達基雄	4. 巻 812
2. 論文標題 デジタル測量と設計システムの連携	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 820
2. 論文標題 循環型社会の形成における歴史的建造物の保存活用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 16-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川博美、平賀あまな、斎藤英俊	4. 巻 820
2. 論文標題 台湾の製糖工場の保存活用に見られるアダプティブ・リユースの取り組み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 22-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 イワン・ネツゴディン	4. 巻 820
2. 論文標題 21世紀のロシアの産業遺産	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 30-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 820
2. 論文標題 オランダにおける市民参加による旧浄水場と旧造船所の保存活用	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 34-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 67
2. 論文標題 デジタル測定技術による歴史的建造物の保存活用設計手法の開発研究	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 生活造形	6. 最初と最後の頁 74-82
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 64
2. 論文標題 オランダの産業遺産の保存活用における中間的事業主体	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生活造形	6. 最初と最後の頁 69 - 81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 64
2. 論文標題 近代の農業施設遺産の保存と活用	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 生活造形	6. 最初と最後の頁 46-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅, 大石佳知	4. 巻 776
2. 論文標題 産業遺産の保存・活用のための点群とBIMの応用	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 57
2. 論文標題 近代産業遺産都市を構成する社会福祉施設-イタリア・イブレにおける近代工業都市の建設-	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築学会近畿支部研究報告集・計画系	6. 最初と最後の頁 441-444
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 782
2. 論文標題 地域社会の「屋根のある広場」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 12-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 高橋康夫・北尾靖雅	4. 巻 782
2. 論文標題 [群馬県桐生市]近代産業遺産を活用したまちづくりの実践	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 14-17
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 782
2. 論文標題 [北海道ニセコ町]開拓の歴史を伝える小さな町の広場 - ニセコ中央倉庫群	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 18-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 平賀あまな	4. 巻 782
2. 論文標題 [埼玉県深谷市]市民による価値の発信 - 深谷シネマを中心とした旧セツ梅酒造の活用	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 24-25
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 是永美樹	4. 巻 782
2. 論文標題 [埼玉県本庄市]閉じた倉庫から開かれた倉庫へ - 旧本庄商業銀行煉瓦倉庫	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 26-27
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 青柳憲昌	4. 巻 782
2. 論文標題 [ 京都府舞鶴市 ] 舞鶴赤れんが倉庫群の保存と活用 - 市民のための「都市公園」	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 28-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西川博美	4. 巻 782
2. 論文標題 [ 岡山県岡山市 ] 旧銀行を活用した地域の音楽活動拠点 - 旧日本銀行岡山支店・ルネスホール	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅・斎藤英俊	4. 巻 782
2. 論文標題 [ 高知県高知市 ] アール・ブリュットを介した地域社会形成の場 - 藁工倉庫群	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 32-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西岡聡	4. 巻 782
2. 論文標題 近代化遺産保護の近況と保存活用の担い手	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 36-37
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 イワン・ネツゴティネ	4. 巻 782
2. 論文標題 オランダの近代産業遺産の保存と活用：第1回 社会的関心と創造的な産業の育成	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 42-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 イワン・ネツゴティネ	4. 巻 783
2. 論文標題 オランダの近代産業遺産の保存と活用：第2回 デン・ヘルダー海軍工廠の保存と活用	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 建築士	6. 最初と最後の頁 36-39
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 63
2. 論文標題 Socio-Cultural Heritages of a Community Center: Traces of the modern local industry and citizen movements	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生活造形	6. 最初と最後の頁 85-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 63
2. 論文標題 産業遺産の保存・活用のための建築設計プロセス：建築情報の共有による協働の可能性の検討	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 生活造形	6. 最初と最後の頁 65-74
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 60
2. 論文標題 産業遺産の保存・活用における点群とBIMの導入	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 日本建築士会連合会・第60回建築士会全国大会京都大会セッション資料集	6. 最初と最後の頁 52-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 北尾靖雅	4. 巻 62
2. 論文標題 近現代アパレルメーカーの工場施設と都市計画 - 地方都市における郡是の生産施設と用地 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 生活造形	6. 最初と最後の頁 47-54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計15件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 堀江里紗、北尾靖雅
2. 発表標題 文化遺産の時間空間的側面を考慮した地域計画手法に関する研究 - 京都府南部地区の駅周辺地域を対象とした考察 -
3. 学会等名 日本建築学会 (近畿支部研究発表会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西川博美、安達駿
2. 発表標題 南大東島における開墾と統治について
3. 学会等名 日本建築学会 (2019年度大会学術講演会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達駿、西川博美
2. 発表標題 南大東島における製糖工場周辺建築物の保存・活用について
3. 学会等名 日本建築学会（2019年度大会学術講演会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥海基樹
2. 発表標題 アイラ島のウイスキー蒸留所の建築的・景観的特性に関する基礎的情報の整理 - 酒造産業遺産に関する基礎的研究その1
3. 学会等名 日本建築学会（2019年度大会学術講演会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 鳥海基樹
2. 発表標題 "Portrait" or/and "Plan" - Representation of Paris from XVIth to XVIII centuries
3. 学会等名 フランス都市史学会大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石川希子、徳永紗奈、北尾靖雅
2. 発表標題 建築物内部のデジタル空間表現の比較評価の研究 近代産業遺産建築物を対象とした評価実験の考察
3. 学会等名 日本建築学会（近畿支部研究発表会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鳥海基樹
2. 発表標題 ウイスキー蒸留所の建築家・チャールズ・ドイグに関する基礎的情報整理 - 酒造産業遺産に関する基礎的研究その2
3. 学会等名 日本建築学会（2020年度大会学術講演会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 安達駿、西川博美
2. 発表標題 製糖会社が管理した南大東島の土地分割の変化
3. 学会等名 日本建築学会（2020年度大会学術講演会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 楊雅如、西川博美
2. 発表標題 日本統治時代の台湾・高雄州における製糖産業と都市の発展
3. 学会等名 日本建築学会（2020年度大会学術講演会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 楊雅如、西川博美
2. 発表標題 製糖産業の発展と都市形成 - 高雄州を中心に
3. 学会等名 日本建築学会（中国支部研究発表会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 磯野咲希, 北尾靖雅
2. 発表標題 近代産業遺産の維持管理者の活用意識に関する研究-保存と活用に関する課題意識の考察
3. 学会等名 日本建築学会 (近畿支部研究発表会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 趙逸塵、坪田勲伴、青柳憲昌、是永美樹、斎藤英俊、平賀あまな、西川博美
2. 発表標題 日本統治期の台湾における製糖工場の建築的特徴 台湾における製糖工場の保存と活用 その1
3. 学会等名 日本建築学会 (2018年度大会学術講演会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 西川博美、平賀あまな、斎藤英俊、青柳憲昌、是永美樹、坪田勲伴、趙逸塵
2. 発表標題 旧橋仔頭製糖工場 (台湾糖業博物館) の活用 台湾における製糖工場の保存と活用 その2
3. 学会等名 日本建築学会 (2018年度大会学術講演会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 平賀あまな、西川博美、斎藤英俊、青柳憲昌、是永美樹、坪田勲伴、趙逸塵
2. 発表標題 旧車路乾製糖工場 (十鼓仁徳文創園区) の活用 台湾における製糖工場の保存と活用 その3
3. 学会等名 日本建築学会 (2018年度大会学術講演会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 坪田叡伴・青柳 憲昌
2. 発表標題 「近代化遺産」概念の成立経緯と修理手法
3. 学会等名 日本建築学会（2017年度大会学術講演会）
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 斎藤英俊、平賀あまな、北尾靖雅（共編）、木村勉他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 自費出版（京都女子大学斎藤英俊研究室）	5. 総ページ数 57
3. 書名 近代の産業遺産の保存と活用に関する課題解決のための専門家会議 in TOKYO 2019 / Expert Meeting for Conservation and Adaptive Reuse of Modern Industrial Heritage in TOKYO 2019	

1. 著者名 北尾靖雅 他	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 435
3. 書名 Adaptive Strategies for Water Heritage: Past, Present and Future	

1. 著者名 斎藤英俊、北尾靖雅、西川博美（共編）、王新衡、カローラ・ハイン、後厚史	4. 発行年 2018年
2. 出版社 自費出版（京都女子大学斎藤英俊研究室）	5. 総ページ数 46
3. 書名 近代の産業遺産の保存と多様で魅力的な活用：台湾の製糖工場の保存と欧州の港湾都市の再整備（The 4th International Symposium on Distinctive and Attractive Utilization for Conversion of Modern Industrial Heritage: Conservation of the Sugar Factories in Taiwan and Re-Vitalization of the Port Cities in Europe	



1. 著者名 鳥海基樹	4. 発行年 2018年
2. 出版社 水曜社	5. 総ページ数 398
3. 書名 ワンスケープ - 味覚を超える価値の創造	

1. 著者名 平賀あまな、黒野弘靖、早川典子、菊地成朋、清水郁郎、岸本章、大野敏、大原一興、Hugues de Varine、高橋知、鄭一止、江水是仁、森田芳朗、橋田竜兵、笠寛子、鈴木毅、在塚礼子、日色真帆、佐藤慎也、上西明、他	4. 発行年 2016年
2. 出版社 日本建築学会	5. 総ページ数 117 (80-83)
3. 書名 日本建築学会大会、 居住文化とミュージアム - ネットワークでつなぐ新しい博物館のかたち 建築計画編 -	

1. 著者名 斎藤英俊、西岡聡、イワン・ネブツゴティネ、黄俊銘、黄玉雨、傅朝卿、矢谷明也、北尾靖雅	4. 発行年 2016年
2. 出版社 京都女子大学家政学部斎藤英俊研究室(自費出版)	5. 総ページ数 82
3. 書名 近代の産業遺産の保存と多様で魅力的な活用 - 日本、オランダ、イタリア、台湾の事例 - / Distinctive and Attractive Utilization for Conservation of Modern Industrial Heritage - Contemporary Subjects in the Netherlands, Italy, Taiwan and Japan -	

1. 著者名 福田京、ヨハネス・ウィドド、劉伯英、馬紅、井川博文、クリストフ・ヘンリヒセン、巖文成、ニールス・ステファン	4. 発行年 2017年
2. 出版社 京都女子大学家政学部斎藤英俊研究室(自費出版)	5. 総ページ数 106
3. 書名 近代の産業遺産の保存と多様で魅力的な活用 - 日本、ドイツ、オランダ、シンガポール、中国の事例 - / Distinctive and Attractive Utilization for Conservation of Modern Industrial Heritage - Contemporary Subjects in Germany, the Netherlands, Singapore, China and Japan -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

建築文化遺産の保存活用デザイン手法に関わる実習用模型の開発  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/news/details/rhnb30000000ptbk-att/a1571452461432.pdf>  
 産業遺産保存活用設計手法の研究」プロジェクト  
[https://www.lenovo.jp.com/business/case/133/index\\_2.html](https://www.lenovo.jp.com/business/case/133/index_2.html)  
 重文 舞鶴旧鎮守府倉庫施設舞鶴海軍需品庫模型の作成  
<https://www.kyoto-wu.ac.jp/news/details/rhnb30000000ptbk.html>

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	稲葉 信子  (INABA Nobuko)  (20356273)	筑波大学・芸術系・教授    (12102)	
研究分担者	宗田 好史  (MUNETAYoshifumi)  (70254323)	京都府立大学・生命環境科学研究科・教授    (24302)	
研究分担者	北尾 靖雅  (KITAO Yasunori)  (00293986)	京都女子大学・家政学部・教授    (34305)	
研究分担者	鳥海 基樹  (TORIUMI Motoki)  (20343395)	首都大学東京・都市環境科学研究科・准教授    (22604)	
研究分担者	平賀 あまな  (HIRAGA Amana)  (90436270)	東京工業大学・環境・社会理工学院・特任准教授    (12608)	

## 6. 研究組織 (つづき)

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西川 博美 (NISHIKAWA Hiromi) (00749351)	岡山県立大学・デザイン学部・准教授  (25301)	
研究分担者	是永 美樹 (KORENAGA Miki) (30345384)	京都女子大学・家政学部・准教授  (34305)	
研究分担者	青柳 憲昌 (AOYAGI Norimasa) (00514837)	立命館大学・理工学部・准教授  (34315)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	木村 勉 (KIMURA Tsutomu)		
研究協力者	巖 文成 (IWAO Fuminari)		
研究協力者	西岡 聡 (NISHIOKA Satoshi)		
研究協力者	岡野 雅枝 (OKANO Masae)		

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ブンバル ディヌ (BUMBARU Dinu)		
研究協力者	ネブツゴディン イワン (NEVZGODIN Ivan)		
研究協力者	呂 舟 (LU Zhou)		
研究協力者	馬 紅 (MA Hong)		
研究協力者	傅 朝卿 (FU Chao-Ching)		
研究協力者	王 淳熙 (WANG Chun-His)		
研究協力者	ヘンリヒセン クリstoff (HENRICHSEN Christoph)		

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------